

平成 25 年
第 4 回町議会定例会

行政報告

(平成25年12月 2 日)

幕別町長 岡田 和夫

平成25年第4回町議会定例会が開催されるにあたり、この1年間、町政各般にわたり、議員の皆さまから賜りました温かいご指導とご協力に対しまして、心から感謝とお礼を申し上げます。

平成25年も残すところ、あと、ひと月足らずとなりました。

今年は、幸い大きな災害や事故に見舞われることもなく、1年が経過いたしました。

基幹産業である農業におきましては、7月から8月にかけての長雨と10月の降雪の影響を心配いたしておりましたが、作柄は大きく落ち込むことなく稔りの秋を迎えられましたことに安堵いたしております。

また、財政状況は依然厳しい状況が続いておりますが、おかげさまで計画させていただきました各種施策や事業等につきましては、議会をはじめ、町民の皆さま方のご理解とご協力をいただきながら、順調に進めさせていただいており、心から感謝申し上げます。

以下、当面する行政の執行につきまして、ご報告をさせていただきます。

(新年度予算編成)

はじめに、新年度予算編成に向けての取組について申し上げます。

我が国の経済状況は、昨年12月に発足した安倍政権のデフレ脱却と経済再生に向けた、「大胆な金融政策」などのいわゆる「三本の矢」の一体的な推進により、着実に景気回復のすそ野は広がりを見せつつあるものと理解いたしております。

このような中で、国において8月に取りまとめられた各省庁の概算要求の総額は、復興経費を含め2年連続で100兆円を超える最大規模のものとなっており、年末に向けた予算編成作業を注視しているところであります。

また、同時に総務省がまとめた地方財政収支の仮試算においては、地方税の増収を見込んだ上で、地方の一般財源総額を実質的に前年度と同水準並みに確保するとされたところでありますが、道内においては景況感が好転しているとの印象も薄く、どの程度税収増が期待できるのか、不透明な状況であります。

さらに10月に入り、社会保障と税の一体改革を踏まえ、消費税率を平成26年4月から8%に引上げることが閣議決定されましたが、このことが地方交付税にどのような影響を及ぼすのか、加えて、5兆円規模の新たな経済対策が町の財政や経済にどのような効果があるのかなど、例年にも増して、先の見えない状況にあると認識いたしております。

本町といたしましては、現在、各課からの予算要求原案の取りまとめを行っておりますが、年末に向けて国の予算案、地方財政計画、地方債計画などが確定された後に、予算編成作業が本格化するものと見込んでおります。

いずれにいたしましても、厳しい財政環境の中、特に歳出全般にわたる見直しを行い、最少の経費で最大の効果を上げるという基本理念の下、町民の方々のニーズに応え、住民福祉の向上を図ることができるよう、効率的かつ効果的な予算編成に努めてまいりたいと考えております。

なお、消費税率の引上げに伴う本町の使用料などへの対応につきましては、現在、関係各課で協議を進めている段階であり、今後、新年度の予算編成に向けて、結論を出していくことといたしておりますが、平成27年10月にはさらなる消費税率の引上げが予定されているところであり、慎重に検討を進めてまいりたいと考えております。

(災害時相互応援に関する協定の締結)

次に、埼玉県上尾市と高知県中土佐町との「災害時相互応援に関する協定」の締結について申し上げます。

上尾市とは、忠類村において昭和50年から始まった子ども会交流事業を契機として、今では産業の分野でも「あげお産業祭」や「忠類どんとこいむら祭り」などにおいて、上尾市と本町の特産品販売等を通じて交流を深めているところであります。

このたび、上尾市から「災害時における協力体制の構築」を図りたい旨の提案があり、去る11月11日に上尾市から島村穰（しまむらみのる）市長が来町され、「災害時相互応援に関する協定」を締結したところであります。

また、中土佐町とは、平成22年に当時の国際パークゴルフ協会が中土佐町の「小草（こぐさ）ふれあい公園パークゴルフ場」の造成にあたり、コース設定などの協力をしたことをきっかけとして交流が始まりました。

本年10月に開催されたパークゴルフ発祥30周年記念式典には、中土佐町から池田洋光（いけだ ひろみつ）町長のご出席をいただき、その折に防災に係る協力体制の構築に関して双方の意思を確認し、去る11月18日に中土佐町を訪問し「災害時相互応援に関する協定」を締結したところであります。

いずれも遠隔自治体との相互応援が必要であるとの認識のもと、災害時における食料、飲料水や生活必需品をはじめ、救援・救助活動に必要な車両や資器材等の提供、加えて、救援並びに災害復旧に必要な職員の派遣などを行うことにより、災害対策の連携・強化を図ろうとするものであります。

本町にとりましては、本年5月に協定を締結した神奈川県開成町も加えますと、3つの自治体と協定を締結したことになり、これにより広域防災力が高まるものと期待いたしているところであります。

なお、今後におきましては、防災時の相互応援に限らず、児童・生徒などの交流事業をはじめ、産業イベントなどでの連携に取り組んでまいりたいと考えております。

（メン川の汚染水の検出）

次に、メン川の汚染水の検出について申し上げます。

先の定例会で報告させていただきましたが、その後の経過についてご報告いたします。

帯広開発建設部が8月1日に白人樋門地点で実施した水質調査において、環境基準を上回る鉛が検出されましたが、その後、現在に至るまで国、道、町のいずれの調査におきましても環境基準を上回る鉛成分は検出されておられません。

調査結果をもとに、去る10月4日に関係機関で協議した結果、鉛汚染については原因特定に至るような結果は得られず、鉛を含んだ物質を投棄された可能性は否定でき

ないものの、鉛汚染は一過性のものであり、これ以上の原因特定は困難であると判断したところであります。

また、白濁水の発生原因については、白濁時に採取した水の分析調査の結果、環境基準を上回る物質の検出はありませんでしたが、成分中に植物性の油脂成分である脂肪酸類が含まれていたことから、この油脂成分が何らかの要因で雨水管に混入し、乳化により白濁したものと推測いたしております。

白濁水は8月16日以降、現在に至るまで発生していないことから、一過性のものと考えられ、こちらも原因の特定は困難であると判断いたしたところであります。

なお、白濁水と鉛の関係につきましては、町が河川の水質と雨水桝に堆積した土壌成分の分析を行った結果、環境基準を上回る鉛成分が検出されなかったことから、関連性はないものと判断しているところであります。

なお、現在の水質は環境基準以下であり安全なものとなっておりますが、今後も当分の間、関係機関と連携を図りながら雨水放流口等の監視を実施するとともに、町の広報紙等を通じて水質汚染防止と河川環境の保全について、住民の皆さんへの啓発に努めてまいりたいと考えております。

（帯広厚生病院の移転新築に係る助成）

次に、帯広厚生病院の移転新築に係る助成について申し上げます。

すでに地元紙などで報道されておりますが、本年5月13日に開催された十勝市町村長会議におきまして、北海道厚生連から帯広厚生病院の移転新築整備計画案についての説明と建設費に対する支援の要請がありました。

十勝町村会としましては、相互の理解を深めながら協議を進めていく必要があるという認識のもと、北海道厚生連からの支援要請に対し、新病院整備の基本方針、地域との医療連携及び医師等の確保、財政支援に係る金額と助成方法などに関する質問や要望等を10項目に集約し、10月28日に札幌市内において北海道厚生連と十勝町村会との意見交換会を行ったところであります。

その後、11月6日に開催されました十勝市町村長会議におきまして、10項目に対する回答が北海道厚生連から示されましたので、この回答内容をもとに、11月28日に協議をいたしました。現時点では助成をすることの適否についての結論には至っておりません。

帯広厚生病院は、地域の基幹病院として、多種多様なニーズに応える医療や最先端の医療を提供し、地域住民からも高い評価を受けていることなどを踏まえたうえで、今後も十勝管内市町村全体の中で慎重な検討・議論に努めてまいりたいと考えております。

（農作物の作況）

次に、本年度の農作物の作況について申し上げます。

本年は、5月連休中に8年ぶりとなる降雪、7月から8月にかけての断続的な降雨、そして10月16日には、帯広測候所観測史上最も早い記録となる積雪がありました。

特に夏場の長雨は、小麦の収穫や豆類、馬鈴薯の成熟に影響を与えましたが、全体として概ね平年に近い状況となる見込みであります。

主な作物について申し上げますと、小麦については、収穫時期直前の断続的な降雨により倒伏が見られ、品質や製品歩留りは前年に比べやや下回り、反収では約10俵、製品部分では、ほぼ全量が1等を確保しましたが、規格外は2割弱となっております。

馬鈴薯は、植え付け後の低温や生育時期の干ばつ、収穫時期の降雨により、小玉傾向や病害・湿害による腐れもあり、収量・品質ともに平年を下回る状況にあります。

てん菜については、収量は平年を上回る見込みですが、9月から10月上旬にかけて最低気温が高く推移したため糖分の蓄積が緩慢となり、糖度は平年をやや下回ることが心配されております。

豆類については、小豆は、品質は平年並みですが、収量はやや減となっております。金時などの菜豆類は、8月中旬の高温や9月中旬の降雨により、色流れ等による品質低下が見られましたが、平年並みの収量となっております。

野菜については、ゆり根の収量は平年並みでありましたものの、長いものは細め傾向で収量は若干の減、レタス等の葉物野菜については、春の低温や干ばつによる生育の遅れ、秋の降雨の影響により若干の減収がありましたが、全国的な猛暑による品不足のため価格は高騰したところであります。

牧草については、1番草は、ほぼ平年並みで推移していましたが、2番草については、8月上旬の降雨の影響で大幅に収穫が遅れ、収量が平年より下回りました。

サイレージ用とうもろこしは、収量、品質ともに平年並みとなっております。

年間を通じた天候不順に悩まされながらも、出来秋を期待し、ご努力をされてきた生産者の皆さんをはじめ、各農協、農業改良普及センターなど関係機関の皆さんのご指導に対し、改めて敬意を表するところであります。

（ＴＰＰを考える幕別集会）

次に、ＴＰＰに関する幕別集会の開催について申し上げます。

ＴＰＰ交渉につきましては年内妥結に向け、首席交渉官会議が11月下旬からアメリカ開催に引き続き東京で行われ、その後、安倍首相とアメリカのバイデン副大統領との会談も予定されており、関税協議のヤマ場を迎え、農業者の皆さんをはじめ、私どもにとりましても重要農産物5品目等の関税が確保されるか注目しているところであります。

このような情勢の中、明けて1月25日、幕別町百年記念ホールを会場に、幕別町農業協同組合の飛田代表理事組合長を招き、これまでのＴＰＰ交渉の概要と農業や国民の生活に及ぼす影響、さらにはこれからの農業を含めた地域経済のあり方を含めてご講演をいただくべく、現在準備を進めているところであり、準備が整い次第、町民の皆さま、管内自治体及び関係団体にご案内申し上げる予定といたしているところであります。

（福祉灯油の実施）

次に、福祉灯油の実施について申し上げます。

円安の状況などを受けて、灯油価格は高値傾向を示しておりますことから、低所得者世帯等の方の生活安定を図るために昨年度に引き続き福祉灯油を実施いたしたいと考え、関連する所要の経費を今定例会に補正予算案として提出したところであります。

本町に住所を有する生活保護の受給世帯と本年度町民税の非課税世帯で、75歳以上の高齢者世帯、身体・知的・精神に障がいのある方がいる世帯など、約1,700世帯に6,000円分の灯油引換券を支給するものであります。

(公共工事の発注状況)

次に、公共工事の発注状況について申し上げます。

11月末現在での公共工事の発注済額は、23億6,306万円で、発注率にいたしますと94.6%となっており、平成24年度からの繰越事業を含めて、計画しておりましたあらかたの工事発注を終えたところであります。

発注済の工事につきましては、工事の早期完成と労災事故の防止など安全管理の徹底を図るよう受注者に対し指導してまいりますとともに、今後の発注工事におきましても、発注条件の整備に努め、安全な工事の遂行に万全を期してまいりたいと考えております。

以上、当面する諸問題等につきまして、ご報告をさせていただきましたが、議員の皆様には、引き続き町政の執行に対しまして、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、行政報告とさせていただきます。